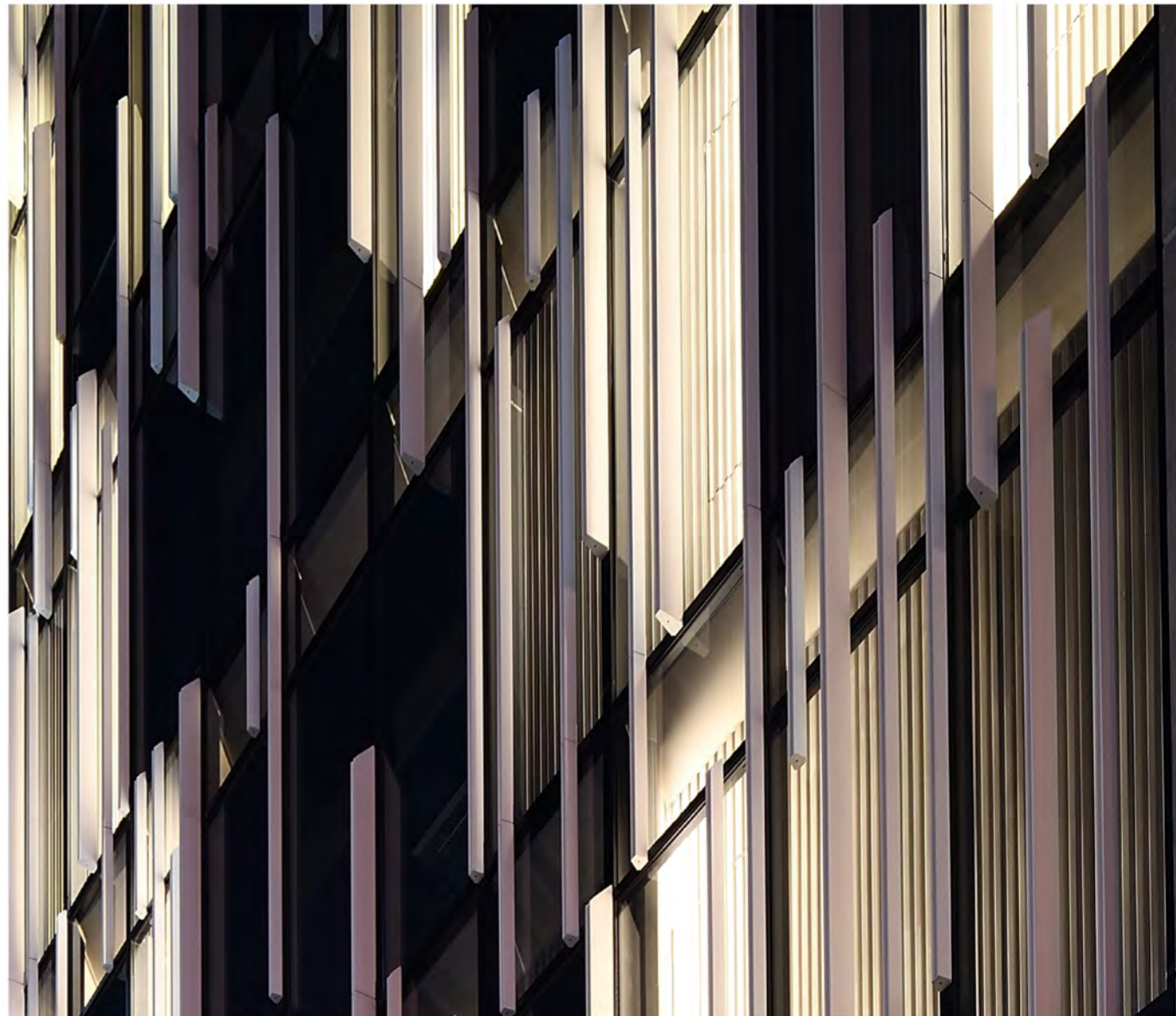




氷柱の煌めきをまとい、すすきのに品格ある賑わいを生むダイニングビル

増え続ける国内外からの観光客で賑わう札幌随一の歓楽街すすきのに建つダイニングビルです。ネオンが眩い看板建築がひしめく景観の中でも際立った、シンボリックな佇まいを追求しました。「氷柱」をイメージしたファサードは、氷の中で光が反射を繰り返すような煌めきと透明感のある光で演出しました。窓は大きく約40%の開口率を確保。ファサードは内外を隔てず人の営みを街路へ垣間見せながら、建築としての一体感を高めています。すすきのの華やかさと賑わいを維持発展させながらも、品格のある街並みづくりに貢献したいという施主の想いを実現した建物です。



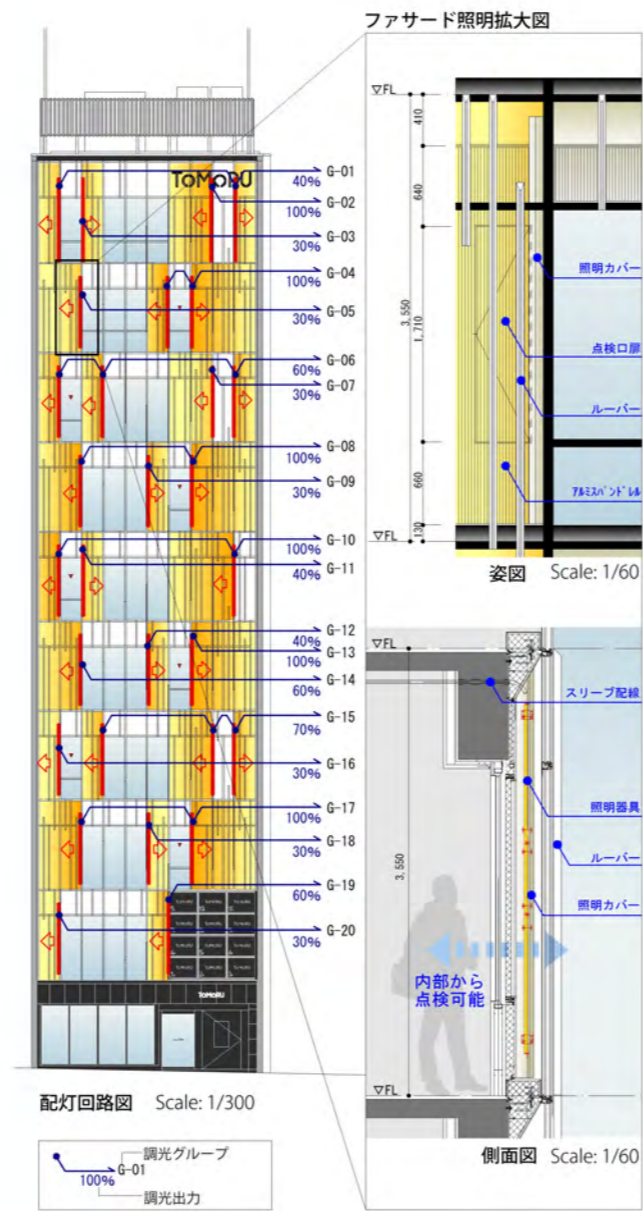
ファサード照明廻り 照明器具と遮光板の形状を工夫し、バックパネルにシャンパンゴールドの光が伸びる



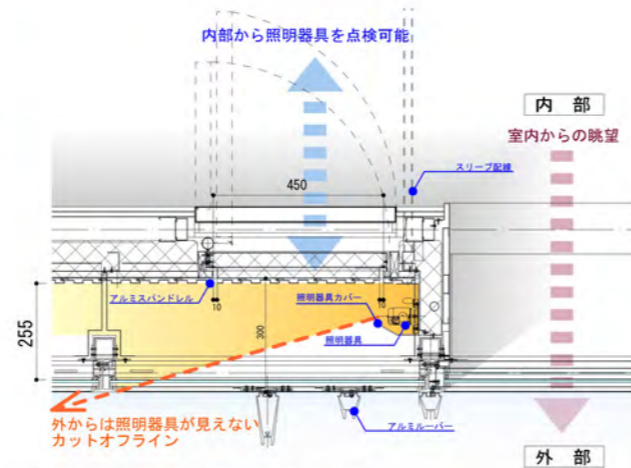
ファサード開口部 氷柱の壁の奥に人の営みを垣間見せる外観



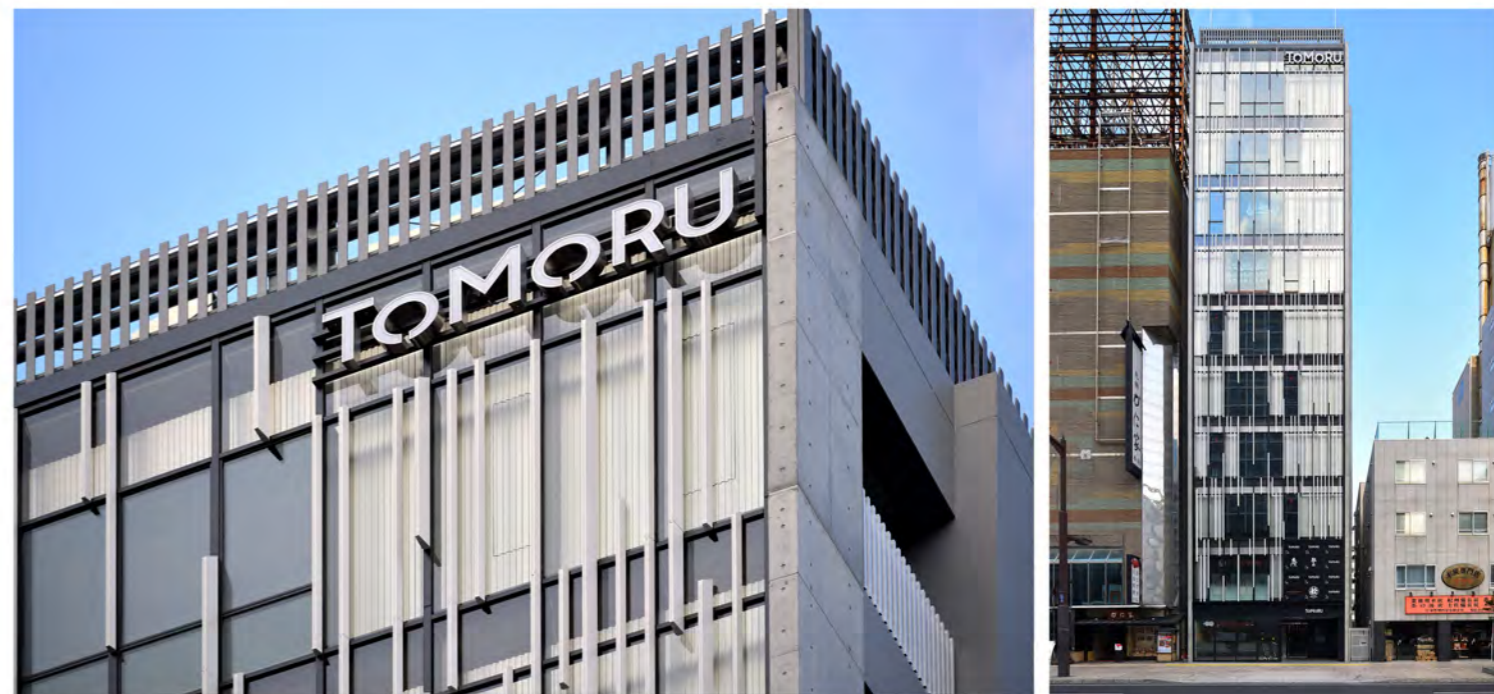
南側外観 調光により照明の明るさに変化をつけ、自然の中の氷柱の不均質な輝きを演出



照明回路を各階2~3グループに分け、調光の強弱をランダムに調整することで不均質で自然な氷柱の輝きを表現。基準階では開口率を40%確保、ファサードの奥に人の営みが垣間見える。



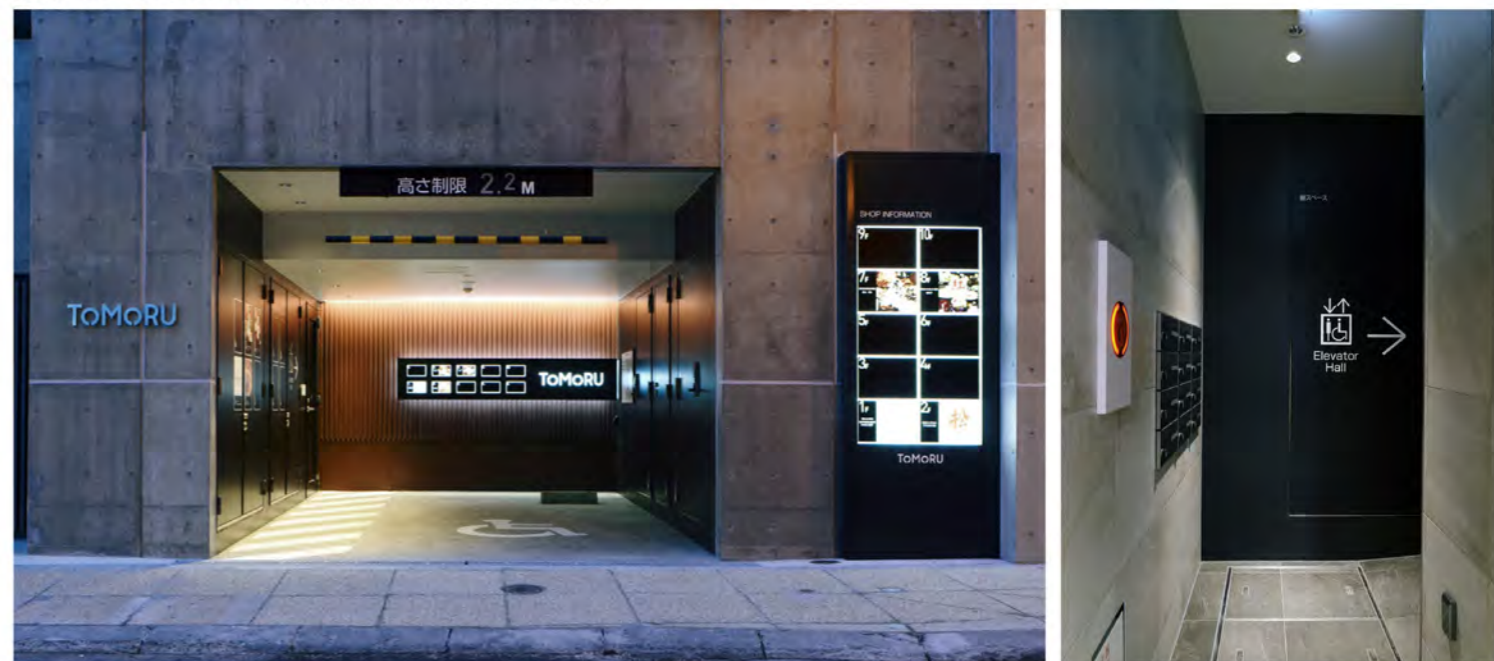
極小スペースに照明器具を納めてテナント面積を最大化。照明器具が外から見えず、効果的に光のグラデーションを生み出す寸法を調整。



日中は氷柱を強調するデザイン 屋上の目隠し壁や側面のバルコニーなども氷柱を意識した縦ルーバーのデザイン



南側メインエントランス 壁面の光の列柱により奥へと誘導



北側サブエントランス 壁面サイン照明を浮かび上がらせた落ち着いた光環境